

学年：1年 | 単元名：14. おおきいかず

1. 単元目標：(全14時間)

○2位数や簡単な3位数について、個数の数え方や数の読み方、書き方、数の構成などを理解し、10を単位として数を捉える力及び数の構成の着目して数の計算の仕方を考える力を養うとともに、数で表すことのよさを感じ、日常生活に活用しようとする態度を養う。

考判表・具体物や半具体物の操作を通して、120まで程度の数のしくみを考える。
・120まで程度の数について、「単位の考え方」や「十進位取り記数法」の考え方を適用しようとする。

知・技・2位数や簡単な3位数について、個数の数え方、読み方、書き方を理解する。
・2位数や簡単な3位数について、数の読み方や書き方、数の構成や大小などを理解する。
・簡単な場合の2位数の加減計算ができる。

2. 指導内容

・

3. 指導のポイント

この単元の指導のポイントは、

1. 十進位取り記数法の理解

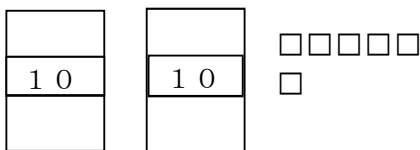
2. 順序数と計量数の区別と理解

○「1」に対して「100」がどれくらいか？量感で理解させることも必要。

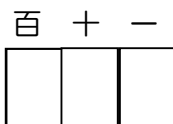
- ・生活の場面をできるだけ設定したい。Ex. 1m ← → 100m
- ・計量数でとらえさせ、その後、順序数でとらえさせる。

○十進位取り記数法。

- ・位を意識する。(場所によって数の意味が変わる。)
- ・かぞえかた、かき方は、「10が2つと1が6つで、にじゅうろくで26とかきます。」と指導する。10の束のカードと1つずつのブロックを使って説明する。
- ・「何百」とか「何十」ではなく、「百がいくつ」「十がいくつ」という考え方を定着させたい。



○下のような枠を作って、数字を入れて読み書きの練習をしてもよい。



○99より大きい数

- ・まず、計量数としてとらえさせる。
「百がいくつ」「十がいくつ」「一がいくつ」
- ・0から100まで順序よくかくことにより、規則性を見つけさせたい。
200までかかせたい。(101, 102・・・がむずかしい。)
- ・「かずのせん」を使って順序数をとらえさせる。
- ・計量数と順序数でとらえさせる。

○たしざんとひきざん

- 単位の考え方を適用する。
 - 10を一まとめにして考える考え方がわかる。
 - 10を1と考えると、何十の計算も1の位の時と同じように考えることができる
 - 「10」を「1」と考えると、「十の位」も「一の位」と同じ様に考えられる。
- 「十の位」は「十の位」で、「一の位」は「一の位」で別々に考えて計算すればよいことを見
つけさせたい。→十進位取り記数法の理解を深める。
- 「数」の処理にならないように、視覚的にとらえさせながら考えさせる。

※教科書では、数の数え方を重視している。(計量数より順序数を重視)

※順序数は、ある程度生活の中で理解していると考ええると、計量数で数を考えることの方が重要で
あると考える。視覚的、感覚的にとらえさせたい。

4. 指導にあたって

- ①子どもたちにどんな見方や考え方を獲得させたいか。
- ②それを通してどんな子どもに育てたいか。

5. 学習展開

第1時

学習のめあて（作業・知る・考える）

〇おおきいかずをつくろう。（P91/92）

教師の発問と活動・子どもの発言と活動	知識・理解・資料・評価・留意点 他
<p>1. 問題把握 ※「大きいかず」と板書する。 T:今日から「大きい数」の勉強をします。 ※黒板に大きな文字で「2」小さな文字で「5」とかく。 T:大きい数は、どちらでしょう。→C:「5」 T:「2」のほうが大きい数ではないですか。大きくかきましたよ。どうして「5」のほうが大きいのですか。 C:「5」の方が、多い。（指でしめす など）—計量数 「5」の方が「2」より後から出てくる。—順序数 T:そうですね。「多い数」が、「大きい数」 後から出てくるのが「大きい数」ということですね。 T:では、ブロックを出しましょう。ブロックで「26」をつくりましょう。 となりの人と協力してはいけません。一人で作りましょう。→C:できない。 T:どうしてできないのですか。 C:ブロックは、20個しかない。 T:何とか工夫できませんか。考えましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 大きい数を量でとらえさせる。 • 計量数にしぼる。
<p>2. 自力解決・学びあい ケースを使って、「26」をつくる。 T:うまくできましたね。ケース1つが「10」ということですね。 T:「26」は、ケース2つとブロック6つで表すことができます。 ※ケースの上に 10 のカードを重ねる。 T:わかりますか。ケースの変わりに 10 のカード使います。便利なところがどこか分かりますか。→C:10のかたまりがつかれる。 T:大きい数をあつかうときには、10のかたまりがあると便利ですね。だから、大きい数を考えるときに使うと便利です。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 10 のカード ブロック 数え棒
<p>3. まとめ・ふりかえり T:では、今日のまとめをしましょう。 ①「大きい」ということは、「多い」ということ。 ②大きい数は、10 のカードとブロックで表す。 ※P91/92 を読んでまとめとする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 「十の位」を意識させる。 • 子どもの言葉で、できれば各自でまとめさせたい。

第2・3時

学習のめあて（作業・知る・考える）

〇おおきなかずの数え方とかき方と読み方を知ろう。（P93/94/95）

教師の発問と活動・子どもの発言と活動	知識・理解・資料・評価・留意点 他
<p>1. 問題把握 T:きょうは、おおきなかずの数え方とかき方とよみ方です。 ※黒板に「2」と「5」とかく。 T:どちらが大きいでしょう。→C:「5」 T:そうですか？これは、「20」のつもりでかいたのですが？ だめ？→C:だめ。「0」をかかないと「20」にならない。 ※子どもとにやり取りの中で、「数字は、場所によって意味を表す。 場所によって2になったり20になったりする。」ということをおさえる。</p>	<p>・十進位取り記数法の原理をおさえる。</p>
<p>2. 自力解決・学びあい T:では、これはいくつでしょう。 ※「10」のカードとブロックで「26」をつくる。→C:「26」 T:どうかいたらいいでしょう。※「206」「26」などをかく。 C（どれがいいか、いろいろ言わせ、理由も聞く。） T:「26」とかいたらいいですね。 □□ をかく。 T:書く場所が決まっているのですね。ここを「十の位」ここを「一の位」といいます。では、P93/94/95の問題をしましょう。 ※教科書の枠を2つに分けて、10のまとまりをつくって、答えをかいていく。</p>	<p>・答え合わせ</p>
<p>3. まとめ・ふりかえり T:WSを配ります。ここに今から言う数をかきましょう。 ○10がいくつ、1がいくつ ○十の位がいくつ、一の位がいくつ ○数字→10がいくつ、1がいくつ</p>	<p>・答えをWS①にかいていく。 ・カードをイメージさせて書かせる。</p>

※ワークシートなしでもできるようにする。

※「百の位」も少し扱っておく。

第4時

学習のめあて（作業・知る・考える）

〇2けたや3けたの数をいろいろな言い方で表そう。（P96）

教師の発問と活動・子どもの発言と活動	知識・理解・資料・評価・留意点 他
<p>1. 問題把握 T:76 をいろいろな言い方をします。 ①76 は、十の位が7で一の位が6です。 ②10が7こで70、1が6こで6、70と6で76 ③76 は、70と6をあわせたかずです。</p>	
<p>2. 自力解決・学びあい T:いろいろな数をこの3つの言い方で表してみましょう。 ①□は、十の位が□で一の位が□です。 ②10が□こで□、1が□こで□、□と□で□ ③□は、□と□を合わせたかずです。 ※いろいろな2けたのかずでやってみる。 T:3けたになっても同じように言えますか。→C:いえる。 T:では、やってみましょう。 ※チャレンジ：いろいろな3けたのかずでやってみる。</p>	<p>•話型のWSをつくってもよい。WS④</p>
<p>3. まとめ・ふりかえり ※P96の問題をすることでまとめとする。</p>	

第5時

学習のめあて（作業・知る・考える）

〇100を知ろう。（P97/98）

教師の発問と活動・子どもの発言と活動	知識・理解・資料・評価・留意点 他							
<p>1. 問題把握 T:今日は、このビー玉の数を数えてもらいます。 何個あるか一目でわかるようにならべましょう。 ここにプリンカップがあります。どう使いますか？ C:ビー玉を10個ずつ入れる。 T:そうですね。では、はじめましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 1グループ4名程度。 • 96～99個のビー玉を渡す。 							
<p>2. 自力解決・学びあい T:上手にならべられましたね。いくらですか？ C:96 97 98 99 C:あと〇個で100だ。 T:では、みんなのを100にしましょう。 10のまとまりが、いくつですか。→C:10 そうですね。では、100にしたらこの大きなビニール袋に入れましょう。どうですか。 C:100は、こんなんだ。すごい！ T:100がわかりましたか？数字でかくと、どうかきますか。 C:<table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"><tr><td>1</td><td>0</td><td>0</td></tr></table></p> <p>※<table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"><tr><td>10</td><td>0</td></tr></table>や<table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"><tr><td>1</td><td>00</td></tr></table>が、でた場合は、2桁のときどう書いたかを想起させ、口の中は、0から9までの数字であることをおさえてどれがいいかを考えさせる。 C:「100」 T:そうですね。100は、すごいですね。漢字で書くと「百」とかきます。</p> <p>T:では、次に「100」まで数えましょう。 かぞえながら、このプリントに数字をかいていきましょう。 では、はじめましょう。 C(100までかきこむ)</p>	1	0	0	10	0	1	00	<ul style="list-style-type: none"> • 集合数としての100をとらえさせる。 • WS②配布 • 順序数としての100をとらえさせる。 • 唱えながら書かせる。
1	0	0						
10	0							
1	00							
<p>3. まとめ・ふりかえり T:今日は、「100」とは、 ①こんなに多い。こんなに重い。 ②100まで、順に数字がかけた。 ということです。 ※P97/98で定着をはかる。</p>								

※100までの数を書くときは、「1」からかくほうがよい。
 なぜなら、順序と数が、一致するからである。それに、唱えるときは、「1」からである。
 だから、「0」は、最後に枠の外にかくようにする。

第6時

学習のめあて（作業・知る・考える）
〇かすのならばかたのきまりをみつけよう。（P99）

教師の発問と活動・子どもの発言と活動	知識・理解・資料・評価・留意点 他
1. 問題把握 T:教科書の最後のページの表を出しましょう。 この表をみて、いろいろなきまりをみつけましょう。	
2. 自力解決・学びあい T:まず先生が問題を出します。その後に同じような問題をみんなに作ってもらいます。 〇どんな並び方をしているのでしょうか。 ①一の位が3のかすは？ ②十の位が6のかすは？ 〇いろいろな問題 ①「0」からななめに見るとどんな数の並び方になっているのでしょうか。 ②十の位が「4」で一の位が「6」の数？ など ※①きまりを見つけて数を選ぶ。 ②数を選んできまりを見つけて発表する。 ③数を当てる問題を出す。	
3. まとめ・ふりかえり T:いろいろなきまりがみつかりましたね。	

※表について

- 教科書の最後のページにある表は、「0」から始めている。
この表は、「かすのならばかた」のきまりを見つけるのには、便利である。
- 「1」から始めるよさは、順序と数が一致するからである。また、唱えるときも「1」から始めるからである。

※表に数をかくときは、「1」から始めるのがよい。→書くときは、「1」から。（WS②）

きまりを見つけるには、「0」からの表がよい。→きまりを見つかるときは、「0」から。（教科書）

第7時

学習のめあて（作業・知る・考える）
〇かすのせんをつかっておおきいかすをみつけよう。（P100）

※数を順序数でとらえることを狙う。

※数の線は、右に行くほど大きくなることを確認しておく。（既習事項）

- 増える場合は、右へ、減る場合は、左へ

OP100の問題をして、その後

⑥P100の上の数直線を使って、ペアで問題の出しあいをする。

〇より△大きい数 〇より△小さい数。

⑦数の大小

ペアでWBに問題の出し合いをする。

⑧手をたたいてうまく唱えられたら正解。

- | | |
|----------------|-----------------|
| ① 1 10 100 | } 唱えるのは、これしかない。 |
| ② 5 50 500 | |
| ③ 2 20 200 | |

第8時

学習のめあて（作業・知る・考える）

○100より大きい数をつくろう。（P101）

OWS③

○数→「100」と「10」のカードとブロックを使って

- ・「113をつくりましょう。」
- ・「103を作りましょう。」

○「100」と「10」のカードとブロック→数

- ・「これはいくらでしょう。」→100が1つと10が3つと1が6つだから136です。

○順序数でとらえさせる。→200までの数をかこう。（WS③）

- ・100をこえるかずのかき方を確認して、200まで唱えながらかく。

- ・101 102・・・・・・・・・・109 110 が、むずかしい。□□□□ で考えさせる。

OP101の問題をすることでまとめとする。

第9時

学習のめあて（作業・知る・考える）

○かんたんなたしざんとひきざんをしよう。（P102）

1. $30+4$ $34-4$ をカードとブロックを使って計算してこたえをだす。

- ・何問か一斉指導でやる必要があるかもしれない。

2. P102②：自力解決→答え合わせ（カードとブロックで説明）

3. 式と計算結果を見て、「きまり」を見つけさせる。

きまり

- 「十の位」は「十の位」で、「一の位」は「一の位」で別々に考えて計算すればよい。

第10時

学習のめあて（作業・知る・考える）

○かんたんなたしざんとひきざんをしよう。（P103）

1. $25+3$ $28-3$ をカードとブロックを使って計算してこたえをだす。

- ・何問か一斉指導でやる必要があるかもしれない。

2. P103⑤：自力解決→答え合わせ（カードとブロックで説明）

3. 式と計算結果を見て、「きまり」を見つけさせる。

きまり

- 「十の位」は「十の位」で、「一の位」は「一の位」で別々に考えて計算すればよい。

第11・12時

学習のめあて（作業・知る・考える）

○何十のたしざん、ひきざんをしよう。（P104）

教師の発問と活動・子どもの発言と活動	知識・理解・資料・評価・留意点 他
<p>1. 問題把握 T:今日は、何十のたしざんとひきざんの勉強をします。 $30+20$は、いくらですか。→C:50 T:では、$30+20=50$という説明をこの「10のカード」を使って説明しましょう。(指名) ※「10が3つと2つだから、10が5つ。だから50」という説明ができればいい。</p>	<p>・「10」のカード</p>

<p>T:そうですね。10がいくつかを考えると、今までの計算と同じようにできま すね。 T:では、問題です。10のカードを使って答えを出しましょう。 20+70 60+40 10+90</p>	<p>・個別指導</p>
<p>2. 自力解決・学びあい ※10のカードを使って求答する。 T:では、答え合わせをします。20+70=90 60+40=100 10+90=100 ※100になる場合は、説明が必要かもしれない。 T:ありますか。よくできました。ところで、何十のたしざんには、きまり がありそうです。式と答えを見てきまりを見つけましょう。 C:十の位をたして、「0」をつけたらいい。 T:よく見つけられました。</p>	<p>・板書</p>
<p>3. まとめ・ふりかえり T:では、まとめます。何十のたしざんは、 ○「10」がいくつと考えればよい。 「10」を「1」と考えると今までの計算のやり方が使える。 ○計算の仕方は、十の位を計算して、あとで「0」をつければいい。</p>	
<p>1. 問題把握 T:では、ひきざんもできますか。→C:できる。 T:50-20は?→C:30 T:どう計算しましたか。→C:5-2=3 0をつけて30 T:本当でしょうか。10のカードを使って確かめましょう。→C:各自確かめる。 T:確かめられましたか。では、問題を出します。式と答えをかきましよう。 60-30 100-20 100-70</p>	<p>・個別指導</p>
<p>2. 自力解決・学びあい ※求答して、10のカードで確かめる。 T:では、答え合わせをします。(答え合わせ) ありますか。よくできました。ところで、何十のひきざんにもきまりがありますね。 どんなきまりでしょう。 C:十の位のひきざんをして、「0」をつけたらいい。 T:よく見つけられました。</p>	
<p>3. まとめ・ふりかえり T:では、まとめます。何十のひきざんも、 ○「10」がいくつと考えればよい。 「10」を「1」と考えると今までの計算のやり方が使える。 ○計算の仕方は、十の位を計算して、あとで「0」をつければいい。</p>	

※第9・10・11時の学習展開は、

- ①原理に従って、計算する。(原理：十進位取り記数法)
- ②計算結果を見て、きまりを見つける。(アルゴリズム)
- ③きまりに従って、計算する。

第13時

<p>学習のめあて(作業・知る・考える)</p>
<p>○いかしてみよう。(P105)</p>

○かずさがしビンゴ

十進位取り記数法

数は、0から9までの数字を使って、場所によって意味を表します。
場所によって「に」になったり「にじゅう」になったり「にひゃく」になったりします。
場所（位）によって意味がちがうから計算は、同じ場所（位）同士別々に計算します。
足りなくなったり、余ったりしたときは、隣の位と相談します。
どんな相談をしたらよいか考えましょう。